

模写

千葉県立成田国際高等学校 教諭 山田 真梨子

科目名：美術一般（学校設定科目） 単位数：2 講座数：1 1講座の生徒数：10人前後
授業時数：週2時間（50分×2）を9週にわたり制作

1. この授業でつけたい力（題材の目標）

油絵具という画材や画家の作品に興味を持ち、自分なりに工夫しながら制作を楽しむ力。

2. 材料・用具

キュービックキャンバス（20 cm×20 cm）、油絵具、筆、ペインティングオイル、ペーパーパレット、筆洗器、図版

3. 展開（合計18時間）

展開	主な内容	指導上の留意点	時間数
導入	①図版を見て興味のある作品を見つける。 ②興味のある作品について調べ、作品を鑑賞した際に抱いた感想を書く。	・模写で使用するキャンバスは小さなものにしたが、完成度を求めるのなら作品の選び方に気を付ける。生徒にどのような作品を選ぶべきか助言を行う。人物は時間がかかる。	1時間
構想	③画用紙に構図を描く。	・キャンバスのサイズに合うよう図版の拡大や縮小を行う。正方形のキャンバスを使用しているので、生徒に美しいと思う構図を考えさせる。また、キャンバスの側面にも描かせるのでその部分の構図も考えさせる。	1時間
制作	④画用紙に描いた構図を参考にしながら、キャンバスに描く。オイルでゆるく溶いた油絵具で必要な線を描く。修正したい時は布でふきとる。 ⑤画面全体に着彩を行う。 ⑥全体のバランスを見ながら描き進める。 ⑦デッサンを常に修正するという意識で描く。 ⑧制作の後半では、自分が見せたいところはより丁寧に描き込んでいく。 ⑨最後まで修正しながら完成させる。	・キャンバスに下描きをする際に以前は鉛筆で描いていたこともあったが、油絵具を重ねる際に黒く濁るため、キャンバスに直接油絵具で下描きを行う。 ・授業が週に2回あるため、乾かす時間があまりなかったので、短時間で乾くペインティングオイルを使用し進めた。 ・生徒はある程度制作が進んでくると、デッサンがずれていても修正するのを嫌がるが、修正を繰り返して仕上げるよう指導する。 ・客観的に自分の作品を見られるよう、時々少し離れた場所から自分の作品を見つめさせる。 ・制作時間が残り少なくなってきた場合には、生徒自身が一番見せたいところや主役としている部分を丁寧に描き込むよう指導する。	15時間
鑑賞	⑩制作を終え、苦労した点、工夫した点、楽しかった点などを振り返る。また、友人の作品を鑑賞しよさを味わう。	・自分の作品や他の人の作品を鑑賞し、感想文を書かせ、各自制作を振り返らせる。	1時間

4. 観点別評価（題材の評価基準）

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・模写というテーマに関心をもち、主体的に表現に取り組もうとしている。（表現） ・油絵具に興味をもち、制作を楽しんでいる。（表現） ・画家の作品に興味をもち、よさや美しさを感じ取る。（鑑賞） 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンバスの大きさや形を考慮した構図を作成し、色彩などを工夫した創造的な表現の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図に応じて油絵具や道具の特性を生かし、表現方法を工夫しながら制作に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの生徒の作品からよさや美しさ、表現の工夫を感じ取る。 ・自分の制作を振り返り、自分なりに課題を見つける。

5. 生徒の作品と声



- ・油絵に初めて取り組んだが絵の具を重ねて描くので1回1回の授業が次につながりやりがいがあった。
- ・すぐに絵の具が乾かないので、重ねて描きたいと思う場所をなかなか描き進められなかった。
- ・好きな作品を描くことができ楽しかった。
- ・できた作品を自分の部屋に飾りたい。
- ・原作に近い色を作ること苦勞した。
- ・絵を描きながら色々な筆のタッチがあることを発見した。
- ・長い時間1つの作品に向き合うことが自分の苦手とすることを意識する機会となった。